金浜小

主体的にかかわり、ともに学び合う子の育成

～少人数・複式学級における、算数科の授業実践を通して～

（３年計画の２年次）

校長　野田頭　典枝

１　研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

本校の教育目標は「夢に向かって挑戦する元気な子」である。努力目標である「かんしゃする子」「ねばりづよい子」「はきはきはなす子」「まなびつづける子」の育成に向けて教育活動を展開している。

「はきはきはなす子」「まなびつづける子」の具現のためには、自信をもって主体的にかかわることや思いや考えをつなげて話合うこと、自分の学びを振り返ることを通して、学び合いの充実を図ることが必要であると考えた。

(2) これまでの研究経過から

昨年度は、算数科において、解決の見通しをもち問題に取り組み、考えをつなげて話合い学び合うための指導のあり方について授業実践を通し研究を行った。その結果、成果として以下のようなことがあげられた。

ア　授業の導入に本時の内容に関わる既習事項の復習を行ったり、学習内容を掲示物として残したりしたことにより、児童は、問題解決への見通しをもつことができ意欲的に課題解決に向かえるようになった。

イ　問題解決に関わる教材や教具を準備することにより、児童は、それらを用いて問題解決の見通しをもったり、話合ったりして間接指導を効果的に進めることができた。

ウ　ワークシートや発表ボードを活用し話合いを行うことは、相手の考えを理解することに効果的だった。

これらの成果の一方で、より主体的にかかわり、学び合う児童を育成するために、以下のことが課題としてあげられた。

ア　児童に育成する力

①自分の考えと相手の考えを比較し、類似点や相違点に気づき考えをつなげて話合う力。

②説明するためのツール（半具体物・図等）を使いながら、わかりやすく伝える力。

③わかりやすく伝える技能の基盤となる、語彙力や文章力。

イ　教師の研究課題

①効果的な話合い活動が行われるような指導過程の工夫（話合い場面の位置づけ）。

②各教科及び教育活動全般で、考えをつなげて話し合えるような場の設定。

③間接指導を児童だけで効果的に進められるような、ICT 機器の活用。

④学年に応じためざす児童像の明確化と、児童の実態の把握（話合いのレベル）、それに応じた話合いの仕方の指導。

そこで今年度は、昨年の研究の成果を取り入れつつ、「自信と見通しをもち問題に取り組み、話合いを通し、考えを広げ深められる子」という姿をめざす児童像として掲げ、見通しのもたせ方の工夫、話合い・振り返りの場の設定を意識した授業実践を行うことにより、本主題の実現にせまることができるのではないかと考えた。

２　研究のねらい

解決の見通しをもち問題に取り組ませ、話合いや振り返りを学習過程に位置づけた指導を工夫することで、自信をもって学び合う児童を育成できることを、算数科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

少人数・複式学級の算数科学習指導において、見通しのもたせ方の工夫、話合い・振り返りの場の設定を意識した授業実践を行うことにより、学ぶことのよさを実感し、自信をもって学び合う児童を育成することができる。

４　研究内容

(1) 間接指導を支える見通しのもたせ方の工夫

(2) 考えをつなげて話合い、自分の考えを広げたり深めたりさせる場の工夫

(3) 自分の学びを実感し、学習のよさに気づかせる振り返りの場の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材・授業者など
６	９	第１回授業研究（５・６年） ５年　「整数÷小数（小数のわり算）」 ６年　「分数でわる計算」 授業者　教諭　佐藤　かおる
９	２２	第２回授業研究（３・４年　要請訪問） ３年　「あまりの大きさ」 ４年　「割合」 授業者　教諭　田名部　純一 助言者　八戸市総合教育センター副所長 松橋　祐哉　氏
１０	２７	第３回授業研究（５・６年　小教研複式研） ５年　「面積のくふう」 ６年　「面積の公式を使って」 授業者　教諭　佐藤　かおる 助言者　八戸市総合教育センター副所長 松橋　祐哉　氏
１１	２４	第４回授業研究（２年） ２年　「図やしきをつかって」 授業者　講師　北村　美沙紀

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
７	８	食育指導研修　（東地区給食センター　栄養教諭　中村　孝江　氏）
７	１４	道徳科指導研修　（教育指導課　主任指導主事　大野　勉　氏）
１０	１３	１人１台端末の活用研修　（総合教育センター　主任指導主事　大下　洋一　氏）

６　研究の成果

(1) 本時の内容に関わる既習事項の掲示、前時の学習内容の想起、教具や図の提示等を行うことは、問題解決の見通しをもつことができ、児童同士で間接指導を進めていくことに有効だった。
(2) 指導過程内に意図的・計画的に話合いの場を設定し、ペアやグループ、全体との関わり方を工夫し話合いをさせてきたことにより、自分の考えに自信をもったり友だちとの違いに気づいたりすることができるようになってきた。
(3) 振り返りの工夫や継続により、内容に質の高まりが生まれ、自分の学びや伸びを実感し、次時への意欲をもてるようになってきた。

７　研究の課題

(1) 主体的に問題解決に向かうための、授業の導入から課題設定までの教師のはたらきかけ。
(2) 考えを深めさせるための、児童同士の話合いや教師と児童での話合いの工夫。
(3) 学習効果を高めるためのICT機器の活用。

（記入者　佐藤　かおる）